

まえがき

本書は、JETRO海外調査部とアフリカ4事務所（ヨハネスブルクセンター、ナイロビ事務所、ラゴス事務所、アビジャン事務所）が、アジア経済研究所と連携して実施した2005年度調査の報告書である。

編者は、アジア経済研究所から2004年に、南アフリカのJETROヨハネスブルクセンターに派遣されたが、学術の世界から離れ10年ぶりに駐在することになったアフリカは、理解していたはずのアフリカとはまったく様相を異にしていた。その驚きが本調査の出発点であった。すでに四半世紀をアフリカと向き合うことで過ごしてきたはずの人間が、そのアフリカから改めて知らされたパワフルで俊敏な経済力学をどのように表現すればよいか 私は現在の職場とかつての職場の同僚たちに語り、いまアフリカで“もっとも激しく動いているもの”に目を向けてもらうことにした。それが南アフリカ企業であり中国企業だった。

開発途上国研究において企業研究が重要な一角をなすにいたった現在でも、アフリカの企業研究は遅れている。日本では、執筆陣に加わってもらった西浦昭雄氏のこれまでの仕事を含めても、数えるほどしかない。このような学界の弱みをJETROの同僚に埋めてもらいながら、私たちはこの調査を進めてきた。執筆者がアフリカ各地、ロンドン、日本に分散していたため、互いの顔をみて議論する機会こそもてなかったが、このような編者の意図は十分に共有されている。

2006年3月、出張先の東京にて
編者